

前年度評価結果の概要	<p>○学力向上については、高い数値目標を掲げているが、最難関大学現役3名が合格し、特に中・上位において成績を伸ばしている。しかし、学習時間については、1、2年生の学習時間が昨年度より減少しており、来年度に向けて生徒の学習意欲を高める工夫を考えていく。</p> <p>○生活指導については、生徒の自己評価は高いが自転車事故が多発し、来年度の最重要課題と考えている。多欠席生徒の対応については、情報交換の工夫により、素早い対応ができるようになった。部活動は、体育部・文化部とも、概ね活性化されている。更なる学習と両立を目指していく。</p> <p>○本校への志願者確保は、中高連絡会や「鶴高だより」の配布などで、効果が上がった。上位層の大分市内への流出を防ぐために、更なる広報が必要である。PTAに関する行事の参加など、PTAとの連携はとれているが、学年保護者会については、更に改善を考えていく。学校HPは、保護者の認知も高まってきたので、今後は更に内容の充実を図る。</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
学力と人間性を兼ね備えたタフな鶴高生を育成する。	<p>○授業力を向上するとともに自らの学習の計画・見直しができる生徒を育成することにより、学校が掲げる大学数値目標の達成を図る。</p> <p>○規範意識・人権意識を高揚するとともに、部活動・生徒会を一層活性化させる。</p> <p>○家庭・地域等に積極的に情報発信することにより、大学(特に難関大学)進学を希望する本校志願者を確保する。</p>	<p>○学力向上・進路達成に向けた学習指導及び進路指導体制の充実</p> <p>○生活指導の徹底、人権教育・道徳教育の充実及び生徒会活動・部活動のさらなる活性化</p> <p>○地域に開かれた学校づくりの推進</p>

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL/SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価	
					評価	分析・考察			
学力向上・進路達成に向けた学習指導及び進路指導体制の充実	○平日の家庭学習時間のクラス平均を3時間以上にし、2時間未満の割合を20%以下にする。 ○模試学習到達ゾーンで、B3以上9割、S3以上15名を目指す。(目標:国公立大学最難関2名、難関20名、総数150名)	○授業力を向上させるとともに、「生徒がわかる授業」「伸ばす指導」「見逃さない指導」を徹底する。	○大学入試総括会議(4月)、教科指導作戦会議(5月)を実施し、各学年・教科で取組を徹底する。	PL:教務主任 SL:教科主任	3	<p>○大学入試総括会議、教科指導作戦会議を実施し、各学年・教科で取組を進めた。教科会議等の時間を利用して、教科担当者間で、教科指導やAT問題についての情報交換や協議を行ってきた。</p> <p>○11月進研模試の結果でB3以上の割合は、1年:88%、2年89%であった。S3以上の人数は1年:13名、2年:10名であった。</p> <p>○互見授業・授業アンケートを前期と後期に1回ずつ、計2回実施した。結果について、各教員や教科で分析を行い、3月2日に校内授業研究会を実施し、来年度の取り組みについて検討を行う。</p>	○校内授業研究会での今年度の取り組みについての分析をもとに、来年度の授業改善の方針を検討する。 ○今年度の個人としての反省と学校としての反省を、来年度の授業改善マイプランに生かせるよう職員全体で取り組む。 ○生徒授業アンケート結果から、課題としてあげられた予習・復習の徹底と、生徒が質問できるような改善を考える。	○生徒の実態把握を行い、課題の調整などさらに検討に欲しい。	
			○手帳を活用し生徒自らが学習の計画・見直しを行う力を育成する。(PDCAサイクルの確立) ○進路シラバスを活用し、3年間の学習の流れを理解させるとともに、学習習慣の確立を図る。	PL:教務主任 SL:進路指導主任 教科主任 学年主任	2	<p>○年度当初に生徒に手帳を配り、使い方の指導を行った。定期的な担任によるチェックを行い、面接等で利用した。</p> <p>○学習時間調査(12月AT前)の結果では、家庭学習時間の平均値は、1年:157分、2年:164分、3年:218分であった。また、2時間未満の生徒の割合は全体で23%であった。</p> <p>○進路シラバスを生徒に配布し、年間の学習計画について指導した。シラバスの効果的な利用については改善すべき点もあった。</p>	○手帳の利用についてアンケートを取った。次年度に向け、分掌や学年で、より効果的な取り組みを模索する。 ○シラバスの内容について、今年度末と来年度初めで検討を行い必要な部分を改善したい。年度当初だけでなく、節目ごとの利用についても検討したい。 ○学習時間の定着について、手帳やシラバスの活用はもちろん、その他の工夫を学年・教科で検討する。	○手帳の活用を全体に広げて欲しい。	
			○キャリア教育の視点から総合的な学習の時間の充実を図る。	○生徒の進路選択を支援するための行事を充実する。 1年:職業人講話(7月)、1日大学体験入学(8月) 2年:志望大学のオープンキャンパス参加(8月) 1・2・3年:進路講演会(学年単位1回以上) 2年:卒業生等による合格体験談(3月)	PL:進路指導主任 SL:教務主任 学年主任	3	<p>○総合的な学習については各学年ごとに明確な目標を持ち、1年間進めた。</p> <p>○職業人講話については17の職種の方々に講話をしていただき、有意義であった。</p> <p>○オープンキャンパス、進路講演会については既に実施しているが、卒業生による合格体験談については3月16日に実施予定。</p>	○総合的な学習の時間については、本年度から進路指導部に担当を置き、実施するようになり、内容の充実を図っている。今後も来年度に向け改善策を考える。 ○1年生職業人講話については職種や、その数について今後検討し来年度に生かす。 ○広島県への学校訪問を実施したが、総合的な学習の時間の先進校であったので、来年度に活かすことができる。	○生徒の学習意欲向上に繋げる取り組みをお願いしたい。
			○難関大学希望クラスの指導の充実を図る。	○大学入試総括会議、大学入試問題研究・報告会を実施し、その成果を各授業担当者が徹底して実践する。 ○教科会議等でAT問題の検討を実施し、思考力・判断力・表現力を問う良問を出題する。	PL:進路指導主任 SL:教務主任 教科主任 学年主任	3	<p>○大学入試問題研究・報告会(教科指導作戦会議)は教科でグループ分けして実施するスタイルをとったが、概ね好評であった。</p> <p>○各教科ともAT問題の事前検討は行っているが、まだ十分とはいえない。今年度は特に授業改善においても「思考力・判断力・表現力」がテーマとなっているので、それを問う良問を出題する必要がある。</p>	○大学入試総括会議においては、事後アンケートで「協議の焦点を絞ってはどうか」という意見があったので、その方向で検討中。 ○AT問題の検討において、今年度は事前検討だけでなく、事後検討も各教科にお願いしているが、まだ徹底できているとは言い難い。すべての問題でなく、一部だけでも事後検討を実施する。	○ATについて、他校にはないシステムなので、更なる工夫・改善をお願いしたい。

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL/SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価	
					評価	分析・考察			
生活指導の徹底、人権教育・道徳教育の充実及び生徒会活動・部活動のさらなる活性化	○挨拶、自転車乗車についての自己評価3.3以上を目指す。 ○心身の安定を図り、多欠席生徒数の減少を目指す。 ○部活動加入率75%以上、部活動満足度80%以上を目指す。	○日常の指導及び学校行事をとおして規範意識の確立を図る。	○マナー・モラルの向上を図るため、教職員に対して統一した基準を示す。また、関係機関と連携した指導・講演会等を実施する。さらに生徒会と協力して、あいさつ運動や登下校指導を毎月実施する(PTAと連携した登校指導は年3回実施する)。	PL:生徒指導主任 SL:学年主任 特別活動主任	3	○年度当初、全職員に対して校則等の基準を示した結果、年間を通して統一した見解のもと、生徒指導が可能となった。	○引き続き、年度当初に統一基準を全職員に示すことが大切である。	○危険箇所には標識を設置するなどの対策を考えてほしい。	
		○やさしくたくましく粘り強さを育てる指導を強化する。	○人権意識を高めるための講演会・学習会を生徒教職員ともに全校で実施する。 ○特別支援教育や教育相談に関する職員研修を充実する。	PL:保健・教育相談・特別支援教育主任 SL:人権教育主任 特別活動主任		○「差別すること、されること」をテーマに宇佐市教育委員会の人権・同和教育指導員の次石氏による人権教育講演会を実施した。 ○特別支援教育に関する生徒アンケートを1年生対象に行い、データの集計結果を今後のクラス経営の参考にしている。 ○教育相談の講演会は、障がいへの理解と支援について、講師を招いて学習会を行った。7割以上の参加であり、「自分の授業をより高める為の参考になった」と良い研修ができた。しかし、出張等でクラス担任の参加率が低かった。	○講師を招くにあたり、日程調節が難しく講演会の実施時期が遅れたことを反省し、今年度中に講師を選び、7月の実施を目指す。 ○在学中に同和教育問題についての学習する機会をつくるために、同和教育の講演会を3年に1回の割合で計画する。 ○教員対象の講演会の参加時期、日程について再考し、クラス担任の参加率を上げ、研修を充実させたい。		○更なる改善をお願いしたい。
		○生徒会活動・部活動の時間の確保と短時間集中型練習・活動を工夫する。	○部活動終了後、19:30完全下校を徹底する。 ○部活動キャプテン集を年3回以上実施する。	PL:特別活動主任 SL:学年主任		○部活動加入率81%である。各部に活発な活動を行っている。 ○部活動キャプテン集を6回実施した。特に熱中症についての対応の説明を行い、日常の危機管理について、顧問はもろん部長キャプテンとマネージャーにも意識付けができた。 ○19:30完全下校の呼びかけの徹底ができなかった。また、部活動の活動状況の調査を行ったが、実質的な改善は時間をかけて行う内容が多かった。 ○部活動に関する規定の見直しを、出来るところから行った。	○部活動加入率については高い状態で推移しているが、下校時刻の徹底をはじめとする学習との両立や規律など、その活動をより充実したものにするために、キャプテン集をはじめとする生徒への呼びかけを繰り返し行う。 ○部活動がやりやすい環境を作るために、施設設備の充実や規定の見直しを引き続き行う。		○生徒の部活動への取り組みは非常にいい。学習との両立をもっと進めたい。
地域に開かれた学校づくりの推進	○大学(特に難関大学)進学希望の中学生が入学を希望する高校としての存在感を確立する。 ○PTA総会の出席率80%以上、学年保護者会の出席率70%以上を目指す。 ○ホームページを毎日(学期中平日)更新する。	○中高連携を一層推進する。	○中学生が希望する高校生活が送れる高校としてのPRの場として、オープンキャンパスを実施し、内容を充実させる。	PL:教務主任 SL:学校改革・進学力向上主任 特別活動主任 総務主任	3	○10月10日(土)にオープンキャンパスを実施した。中学生383名、保護者65名が参加した。昨年度より参加者は若干減少したが、内容はより充実させることができた。アンケートの結果、参加中学生・保護者の満足度は100%近かった。	○本年度新たに実施した中学生と在校生が交流できる中学校別懇談会が好評であった。来年度も中学生に本校の魅力PRできるような行事内容をさらに充実させたい。また、中高連絡会などを利用して、中学校教員へのPRも行ってほしい。	○1・2年生に来てもらうなど、オープンキャンパスの両立を更に進めて欲しい。	
		○家庭、PTA等との連携を強化する。	○学年保護者会を充実させ、学校と家庭との協力体制を強化する。(学年保護者会の出席率を上げるために、実施時期を学年で検討する。)	PL:総務主任 SL:学年主任		○学校ホームページや学年通信を通して保護者の積極的な参加の呼びかけを行った。 ○PTA総会当日とPTA総会欠席者連絡会を併せて出席率は80.4%だった。 ○学年保護者会はこれまで2回(7月と10月)実施され、平均出席率は1年が58.9%、3年が63.0%、2年は10月が75.7%であった。	○PTAに関する連絡事項の周知徹底を図る上で、学校から発信するメールは効果的であり、今後も各種行事においても継続していきたい。 ○PTAに関する各種行事の参加においては、PTA役員の献身的な協力体制のおかげでもあるので、今後も連携強化に努めたい。	○保護者との連携は、非常にいい。より一層の連携体制を構築していきたい。	
		○家庭・地域への情報発信を推進する。	○ホームページ制作の分業体制を確立する(各分掌・学年より、月1回以上の記事・写真の提供)。 ○ホームページで様々な情報を発信し、内容の充実を図る。	PL:情報・図書主任 SL:教頭		○各分掌や学年、管理職の情報提供により、学校行事の紹介やPTA行事の連絡などの情報を適宜公開して、定期的な更新を実施することができた。 ○保護者のホームページをよく見ている割合は、昨年度とほぼ同じ割合を維持している。	○ホームページ記事作成を各分掌や学年において、さらに分業化を進める。 ○ホームページの内容のさらなる充実を図る。 ○保護者のホームページへの認知度をさらに増加させる。	○鶴見丘高校は非常に頑張っている。更なる地域へのアピールを検討してもらいたい。	

総合評価
次年度への展望等

○学方向上については、難関大学現役18名が合格し、過去最高の結果となった。国公立大学全体としても130名を超え、入学時から成績を随分と伸ばした。1、2年生については、ここ数年のよい流れを引き継ぎ、来年度に向けて特に学習意欲を高める工夫を考えていく。そのためにも、教員の授業改善の取り組みが不可欠であると考えている。
○生活指導については、昨年度多かった自転車事故が減少した。多欠席生徒の対応については、情報交換の工夫により、素早い対応ができるようになったが、新入生に対する入学時の取り組みを検討していく。部活動は、体育部・文化部とも、大きな成果が現れた。更なる発展を考えるとともに、学習との両立も目指していく。
○本校への志願者確保は、中高連絡会や「鶴高だより」の配布などで、効果が上がっている。PTAとの協力も考えて、更なる広報を検討する。PTAとの連携はとれているが、学年保護者会については、参加数の増加も含め、更に改善を考えていく。学校HPIは、保護者の認知も高まってきているので、今後は更に内容の充実を図っていく。